

# AAC 研究班ニュース

発行日:平成 23 年 12 月 12 日

発行者: AAC 研究班

責任者:委員長 小池 尚子

連絡先:しいのき寮 TEL0721-34-2184

## 施設見学

9 月 12 日、兵庫県立芦屋特別支援学校を訪問し、中島栄之介教諭より支援学校での AAC と PIC の活用事例について説明をしていただきました。

支援学校は全国的に利用者数が右肩上がりという事もあり、兵庫県下の生徒増加に伴い昨年分離独立して開校しました。新設校のメリットとして、LAN 等の情報管理の共用・バリアフリー・多様な教員(臨床心理士、特別支援教育士、言語聴覚士)による新しい学校を創ろうという意気込みがあり、職員の共通認識を作る努力をされているとの事でした。

AAC の手法による PIC を使った内容について、全職員への PC 導入と支援用絵記号(JIS)の使用、校内表示(ピクトグラム)を導入されていました。卒業式で式典の項目を PIC に置き換えて表示し、分かりやすく飽きさせない工夫をした結果、集中して式が進んだというお話がありました。

今後、実践を積み重ねることにより、子どもたちが毎日楽しく過ごせる様に考えておられるとの事でした。



各部屋の PIC 表示



時間割



給食のメニュー

## AAC 研究班分野別研修のご案内(オープン研修)

テーマ:『メタ認知と自己認識』

講師:清水寛之氏(神戸学院大学教授)

日時:平成 24 年 1 月 19 日(木)13:30 ~ 15:00

場所:こんごう福祉センター レクリエーションセンター 小ホール

申し込みは企画人事 G、または、しいのき寮まで



認知心理学の観点から  
コミュニケーションに  
ついて学びましょう。

当日参加も OK です。

# 外部研修参加

8月27日に同志社大学 室町キャンパス 寒梅館で日本 PIC 研究会様主催の PIC シンボルの実践事例研修会が開催されました！

特別支援学校や重症心身障害者施設という異なる場からの話題提供を受けて、参加者と一緒に実践を交流し学び合う場となりました。

・「言語理解の向上と代替コミュニケーション手段の獲得を目指した指導」

～自己の理解と行動調整、心理的な安定に向けて～

中 美子(奈良県立奈良養護学校 教諭)

・「作業療法導入が困難な症例に対する AAC の実践」

善利 成臣(大阪府障害者福祉事業団 重症心身障害者施設すくよか 作業療法士)

・「知的障害生徒への発音指導に関わる PIC シンボルの活用」

永野 建一(京都市立東総合支援学校 教諭)

参加者は特別支援学校でコミュニケーションに関する指導経験が豊かなベテラン教諭が多く、様々な意見や参考になるお話を聞くことができました。

## 災害時のコミュニケーションボード送付について

今回の東日本大震災の甚大な被害に際し、日本 PIC 研究会と知的障害・自閉症児者のための読書活動を進める会はデザイナーの協力を得て、「災害時コミュニケーションボード」を作成しました。

このボードの目的は、施設支援員やボランティアなどの人たちが、知的障がい者や高齢者、外国人などに、情報を伝達したり、コミュニケーションを取るためのものです。話し言葉や文字の代わりに絵記号を使用しています。

災害時に、「ひなん」、「かぞくともだち」、「たいちょう」、「きもち」、「どれぐらい?」、「ほしいもの」などの6項目について、上段の文末の言葉と、下段の文章の内容を合わせて、使用できる構造になっています。このボードは、災害時だけでなく、施設の日常生活や、避難訓練用としても、活用していただけたと思います。

作成後、各方面に配布をしてきましたが、被災地で活用していただこうと、全日本知的障害者福祉協会の了解を得て、東北地区福祉協会傘下の各施設へのコミュニケーションボード配布の段取りを進めています。日本コミュニケーション障害学会の補助を受けた1回目の印刷分は配布を終え、2回目の配布をめざして、現在、研究助成金などの手配をしています。ご協力、ご助言などお待ちしております。

小林美津江

